

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601594		
法人名	有限会社ライフエール		
事業所名	グループホーム悠縁 1階		
所在地	愛知県愛西市甘村井町勘十田割21-2		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375601594&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すべての人達が一つの大きな家族となって、生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、ホーム独自の看取りに関する指針を作成しており、ホームとして出来ることと出来ないことを明確にして、医療との連携を含めて、家族に理解してもらい同意書ももらっている。さらに、利用者が気持ちよく過ごすことが出来るように、特注のお風呂で2人がゆったり入ることができることを想定したり、広いウッドデッキでの行事食をとり入れたり、ホーム内に匂いがこもらない工夫として消臭効果のある壁を設置したり、下半身の筋力が弱くなって立ち上がりが困難になった利用者でも楽にくつろぐことができるソファなどを設置しており、利用者の生活を第一に考えているホームであることがうかがえた。また、ホームでは、学習療法を導入しており、有資格者によるマンツーマンの特別な時間を提供していることで、利用者の認知症状の進行を遅らせる取り組みも積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念の掲示して、毎朝朝礼時、読み上げ復唱している。	職員全体で考え作成した理念12項目について、毎月項目を決めて職員が読み上げている。理念のうち3つに関しては毎年職員全員で考え、投票で上位3位までのものを採用している。なお、理念は事務室に貼ってあり見えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加と2カ月に一度、運営推進会議に出席している。学校の体験学習の受け入れ等も行っている。	ゴミゼロ運動、神社清掃、町内会には必ず職員が参加している。地域での震災募金活動にも参加し、絆をテーマに手形を作った。充実した内容のホーム便りは、町内にも回覧してもらい、ホームへの理解を求めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間行事を通して、地域の方々に随時説明、報告している。年4回の施設広報誌を回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議の中で、問題点や今後の課題等について話し合っている。	会議は、2か月に一度開催して、行事案内や現状報告、防災に関する相談事などについて話し合っている。地域との連携を深め、災害時に地域で助け合えるように、会議で出た炊き出し訓練の実現を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、担当者へ報告し相談できている。	市の担当者として意見の相違があった際には、代表者が何回も足を運び、ホームの実情や内容を伝え、話し合いを繰り返しながら解決につなげるように努めている。また、市内の事業者連絡会の代表を務めており、行政とのパイプ役も務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を設け、拘束しないケアについて、話し合いをして、取り組んでいる。	ホームでは、身体的、精神的拘束、玄関の施錠しないことを大前提として、ケアを行っている。また、ヒヤリハットノートを身体拘束委員会で作り、職員間で回覧し、拘束につながらないように気をつけている。	ヒヤリハットノートを集めて冊子を作成し、それをもとに勉強会を開催することで、職員の気付きを促し、ケアの質の向上に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の委員会の中で、虐待についても話し合い、注意を払いながら、良いケアが出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や研修を通して、学ぶ機会を持ちそれらを活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が契約時に十分な説明を行い家族の相談も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞いたり、玄関に意見箱を設置して、家族等の意見を反映している。	遠方の家族のために、集まりやすいイベントを企画(作品展など)してホームを開放し、話を聞く機会を作っている。行事の案内発送時に、アンケート・要望書・返信用封筒も同封して、家族の意見の吸い上げに努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、ケア会議を通して職員の意見を反映させている。	代表者は、職員に一月に一度、職員に良いところや改善点などを手紙で伝え、信頼関係の構築に努め、職員が意見を言いやすいように努めている。また、ケア会議、フロア会議、7つの各委員会を通して職員の意見、提案を取り上げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、常に職員に声を掛け、やりがいが持てる様に相談にのってくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内、外の研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会の参加や施設外への研修を通して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、不安や心配ごとがないか話し合いなどをして、コミュニケーションをとって安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等を通して、本人の状態や体調についての報告や家族の意見要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に適したケアについて、家族等と話し合い、本人に適したケアが出来る様に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士やスタッフとの関係がうまくいくように、仲裁に入り安心した生活が送れる様にケアしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし、心配ごとがないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も馴染みなれた物や人との関係が途切れないように努めている。	利用者全員でハガキも手作りし、年賀状などを担当職員と作成している。ホームでは、利用者と家族と一緒に過ごしてもらう時間をつくることを考え、年末年始に家族と過ごす方や、法事への出席や墓参りをする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く生活できるよう関わり合える場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し、暮らして来た生活状況を把握し、できる限りの支援に取り組んでいる。	担当者が利用者の衣類の衣替えを始め生活全体に関わりながら、気づきやケアプラン変更の提案等を会議にあげ、モニタリングにつなげるようにしている。また、利用者の誕生日会を企画する際にも、思っていることを聞き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活環境などを把握し、安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力に合った生活が送れるように、カルテ、アセスメントを基に把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく生活できるように課題に応じての意見をフロア会議で話し合いをしている。	毎月開催されるフロア会議で、ケアプランノート等でリハビリ状態の把握等を行い、必要と思われる人や退院後の人を中心に話し合いを行っている。また、3ヶ月毎の短期目標、6ヶ月毎の長期目標の見直しも本人と家族の意向を尊重して行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートの活用により、スタッフが意見を共有できる様に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々適したサービスを提供を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加で暮らしを楽しむことができるように相談、支援に努め、ボランティアの受け入れなどもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を始め、付き添い受診も行い、適切な医療が受けられる様に支援している。	協力医は月2回の往診であるが、時間外対応も可能である。歯科へは付き添って行くが、往診も可能である。認知症専門医の往診が月1回あり、内科医との連携がとれている。かかりつけ医への受診は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護師と共に入居者の状態変化の報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、病院関係者と情報交換や相談に努めて、一日でも早く退院できるように家族の連絡も行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時、家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明して方針を共有し取り組んでいる。	独自の看取りに関する指針を作成し、家族への説明を行い同意書もらっている。重度化した場合、家族と共に過ごせられるようにベッドを用意し、受け入れ体制を整えている。内科主治医との夜間対応の協力体制も整っており、医師、施設、家族で話し合いながら進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ちついて応急処置ができるように研修を通して、特変急変時に対応できるように技術を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して、災害時に避難ができるように、地域の方にも協力してもらっている。	年2回、夜間も想定して、消防署、装置をつけた業者も立ち会い避難訓練を行い、日頃から近隣の方々への協力を含めた交流も深めている。なお、ホーム内の備蓄の他、畑の作物も災害対策になると考え取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場になって、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに気をつけ対応している。	ホームでは、委員会の中の身体拘束委員会で、プライバシーの尊重や適切な言葉かけについて話し合われている。不適切な声掛けには、注意を喚起するシステムが作られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定出来る場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態に合わせ、一人ひとりのペース、希望、喜びにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時など、服装を一緒に準備したり、おしゃれ、身だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶の用意、テーブル拭き、食器拭きなど出来る利用者と一緒にしている。	利用者の重度化にともない、職員が食べる状態をチェックし、誤嚥がないよう安全面で気を配っている。季候の良いときには、外のデッキを利用し、流しそうめんなどを行っている。ホットプレート等で食事を作り、見る楽しみも提供している。	重度化が進み、介助が必要な方が増えている現状で、自分で楽しく食事をすることが困難になりつつある。このような状況であっても、食事が一日の中で楽しみな時間になるための取り組みを続けられたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、水分、食事形態を工夫して、食事量、栄養が取れる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、出来ない人は職員は介助して、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを守り、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員は、利用者の人格に配慮して、排泄チェック表をもとにトイレ誘導をしている。利用者に快適に過ごしてほしいこと、家族の経済的負担を減らすために、昼夜で下着を変更して柔軟に対応しながら、排泄状態が改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操、マッサージなど体を動かしてもらったり、運動不足をなくして便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に声掛けし、疲労や羞恥心に配慮しながら入浴し、入浴の楽しさを支援している。	特注の広い浴槽は、ゆったりと入浴ことができ、夏場は毎日、冬場は一日起きの入浴となっている。浴室でリハビリも気持ちよく行えるように一人ひとりに合った入浴に努めている。季節に応じて柚子風呂や菖蒲湯も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせ声掛けし、休息や睡眠をとり、どのようにしたいか希望を取り入れ、安心して眠れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、日付、名前を本人の前で読みあげ、飲み忘れ、飲みまちがいがないように2人で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、レクリエーションや軽作業を提供し、日々、喜びや楽しみが持てる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外出、レクリエーションを通して、戸外に出かけられる様に働きかけている。	ホームでは、散歩は近くの神社などに日常的に出かけ、地域の人に知ってもらえるように努めている。さらに、外出レクとして喫茶店やドライブに出かけたり、買い物ツアーを企画して一緒に買い物に出かけることも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物等に出かけて、本人がお金を使用出来る場面作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やハガキなど、その時に応じて支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方に季節に合った貼り絵や物を作ってもらい、季節が感じられる様に工夫している。	共有空間には、利用者の体型に合わせた低めのソファが置かれ、くつろげるように配慮がされている。さらに、消臭作用のある壁を設置し、匂いがこもらないようにしており、広いウッドデッキは、開放感があり、気持ちよく過ごすことが出来る。	掲示したある唱歌の歌詞を、利用者が見やすいように、大きく書いて装飾も施すと、季節感も感じられる掲示になるのではとないかと思われる。また、一日の流れのなかで音楽を活用しながら、より温かい雰囲気になることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内に、ソファ等を置き、利用者同士で、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物等を居室に置いたり、家族の意志を尊重して、居心地よく過ごせる様に工夫している。	利用者の個性に合わせてながら、馴染みの人の写真を飾ったり、テレビやタンスを持ち込んでいる方もいる。また、利用者の希望するベッドや布団等の寝具を使い、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備、片付け、洗濯物たたみ等、できる事をしてもらい、自立した生活が送れる様に支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム悠縁

目標達成計画

作成日: 平成 24年 1月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を楽しむことの出来る支援	快適な食事空間の提供	個々に合わせた食事空間の提供とBGMを流すことで楽しんで食事が出来るよう支援する。又、メリハリのある食事時間の提供に努める。	12ヶ月
2	52	居心地のよい共用空間づくり	居心地のよい共用空間の維持と向上	季節感を取り入れた作品づくりや行事等の実践により、さらなる維持と向上を目指す。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月